

中・東部地区学校教職員が板妻駐屯地を研修



静岡地本は、今後も卒業生が成長した姿を見学出来る部隊研修等を通じて各学校の教諭等に自衛隊の任務や人を育てる組織の魅力について理解を深めてもらい、熱意ある若者の獲得に努めていく。

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、4月24日（月）、県内の高校及び専門学校等の教職員を対象に陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）研修を行った。

この研修は、県内中・東部地区に所在する各学校の教職員や進路指導担当教諭に、駐屯地の見学を通して自衛隊の任務や役割への理解を深め、今後の進路指導に役立ててもらい、ことを目的に実施し、25人が参加した。

まず中部地区は静岡地本、東部地区は板妻駐屯地内において、自衛隊の活動や仕事内容、その他近年の自衛官採用状況や制度に関する説明等を行なった。

その後、両地区が板妻駐屯地で合流すると、隊員食堂で普段隊員が扱っている食事を体験喫食したほか、橘中佐の資料館や今春入隊した新隊員を訓練している教育隊を見学した。入隊して1ヶ月弱の新隊員に対する89式小銃の分解や結合訓練では、初めて取り扱う小銃に緊張感が漂う中、真剣に教育に取り組みむる姿に、参加者達は任務の重さを感じ感銘を受けていた。また、新隊員の中には今回参加した教職員が所属する学校の出身者も多く、3月に卒業してわずか1ヶ月余りでの教え子の成長した姿と雰囲気驚いている様子であった。

「由比桜えびまつり」で7万人に自衛隊をPR



静岡地本は、今後も地域に密着したイベントの場を活用し、自衛隊への興味や関心を高められるよう創意を尽くした広報活動に努めていく。

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、大型連休中の5月3日（水）、由比漁港（静岡市）で開催された「由比桜えびまつり」において広報コーナーを開設し、約7万人の来場者に自衛隊をPRした。

「由比桜えびまつり」は、全国で唯一桜えびが獲れる駿河湾に面した由比漁港で開催される桜えびの祭典であり、毎年5月3日に開催され、県内外から多くの人が訪れる食のイベント。

当日は、静岡地本の広報官と地元の募集相談員が募集説明ブースにおいて自衛隊に興味を抱く学生等に自衛官の採用制度に関する情報や福利厚生面での処遇等について個別に説明を行った。また、静岡地本のマスコットキャラクター「しずぽん」との記念撮影や、自衛官気分を体験出来る制服・迷彩服の試着コーナー等には多くの家族連れが詰めかけて好評を得た。更に、会場には板妻駐屯地（御殿場市）の第34普通科連隊から高機動車と偵察用オートバイ、駒門駐屯地（御殿場市）の第1戦大隊から96式装輪装甲車の車両展示もあり、迫力のある自衛隊車両を間近で見ようと人気が集まった。

また、昨年4月に高等工科学校に入校した松田健吾生徒が、休暇を利用して担当広報官に近況報告をするために会場を訪れた。高等工科学校の制服に身を包み、入校当初に比べ一回り大きくなった姿は、日々の成長と頼もしさが感じられた。

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、大型連休中の5月3日（水）、由比漁港（静岡市）で開催された「由比桜えびまつり」において広報コーナーを開設し、約7万人の来場者に自衛隊をPRした。